「お天気よもやまばなし（秋の日）」　　2025 年

（10 月）飛行機雲

秋の空に白く細長くのびる一本の飛行機雲。飛行機雲の正体は氷の粒で、飛行機から出る排気ガスに含まれている水蒸気が急激に冷やされて出来る。この飛行機雲はすぐに消えるときと、長い雲を残すときがある。上空の空気が乾いているときは周囲の空気と混ざってすぐに消えてしまうが、上空の空気が湿っているときは長い雲を残す。これを応用した天気予想がある。「①飛行機雲がすぐに消えるときは、晴れが続くサイン」、「②飛行機雲が長い雲を残すときは、雨が近づいているサイン」。生活の知恵（観天望気（かんてんぼうき））である。

そして飛行機雲には、老若男女（ろうにゃくなんにょ）が思いを巡（めぐ）らせる夢や思い出を呼び起こさせるものがある。

（備考）飛行機雲は詩や俳句などの題材に使われている。「白い坂道が空まで続いていた」で始まる荒井由実（あらいゆみ）の歌「ひこうき雲」は、ある少年のことを綴っている。

（鈴木　徹）